

6年

よりよい地域環境づくりの提言

『共に生きる町づくりを考えよう』の実践

函館市立湯川小学校 二十一 清和

※この実践は、函館市立湯川小学校6学年（大久保雄治先生、奥崎初恵先生、戸澤和彦先生）の実践の骨子をまとめたものです。

◆単元のポイント~~~~~

○福祉の心を育てる

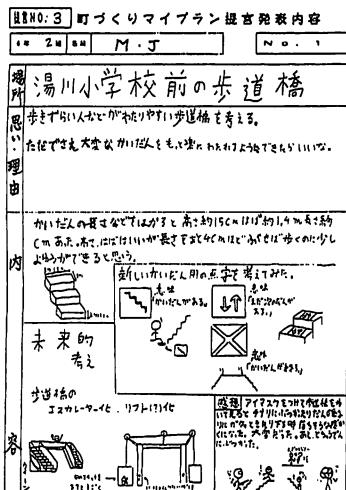
この単元では、障害のある人やお年寄りの立場を視覚的、直接的に体験することを通して、単なる同情ではなく、共に生きる人として共感的に理解していく福祉の心を育てようとしています。

○地域の環境から学び提案する

さらに、福祉の心を実践的、創造的に広げるために、自分たちの住む町にある福祉施設や福祉環境を調べながら、共に生きるために町づくりにはどんな環境が必要かを主体的に考え、提案させるようにしています。そうすることにより、よりよい地域の環境づくりへと福祉の心が広がることを願っています。

○体験や問題解決的な学習を重視する

この単元は、お年寄りや障害のある人々への共感的理解を図るために、ブラインドウォークや車いすの体験活動、そして地域環境の調査活動を中心に取り組んでいきます。また、地域の福祉環境に関する問題点を自分なりに探し出し、それについて解決を図るような問題解決的な学習をとっています。問題を解決していく過程で、他の子と練り合うことによって、お年寄りや障害のある人の立場や地域の人々のよりよい生活に気付き、思いやりの心情が高まっていくものと考えます。



◆単元の目標~~~~~

○障害のある人やお年寄りなどの立場を共感的に理解し、地域の福祉施設について調べようとする。

○地域の福祉環境について理解し、共に生きるためのよりよい環境づくりへ関心をもつとともに、どんな環境が必要か考えようとする。

◆単元の構想（22時間扱い）~~~~~

学習活動

支援

(1) お年寄りや障害をもつ人たちのことを知る（3時間）

- お年寄りや障害をもつ人への自分の思い
- 介護ボランティアのビデオ視聴
- お年寄りや障害をもつ人の立場を理解するための体験活動（ブラインドウォーク、車いす）
- ・障害をもつ人と介護をする人の両面の立場から考え、体験活動をさせるよう配慮する。

(2) 福祉についての知識を広げ、

地域の福祉施設・設備を知る（3時間）

- 福祉関係資料による学習
- 湯川地域にある福祉施設・設備の調査
- ゲストティーチャーの話、交流
- ・障害をもつ人を特別視しないことへの配慮をする。（共生の観点）

(3) 共によりよく生活するための

地域福祉環境プランを考える（2時間）

- お年寄りや障害をもつ人が不便と感じる場所について考える。
- 改善点を考えた自分の福祉環境プラン構想
- ・地域の人々が共に生活するという視点で考えさせる。

(4) 現地調査をして、

第1次福祉環境プランを作る（3時間）

- 現地調査
- 第1次福祉環境プラン作成

(5) 地域に地区別福祉環境プランマップを作成し、

地域に提言する（8時間）

- 地区別グループでのプランの練り合い
- 個々のプラン見直しとマップ作りの準備
- グループごとに地域の方々などに提言
- ・個々のプランを認め、よりよくするための観点で助言する。

(6) 個人ごとの福祉環境プランを提言する（2時間）

- 提言内容の整理
- 商店や市役所への提言

(7) 学習を振り返り、

今後自分で実践できることを考える（1時間）

◆実践するにあたって~~~~~

この実践では、地域や福祉関係機関との連携が大切で、日常からかかわりをもたせていくことが必要です。また、子供たちの提言は一つでも実現させたいところですが、提言内容の結果ばかりに目を向けるのではなく、提言を作り上げ自分の考えをもつ過程を大切にすることが重要です。